

近代の空間システム・日本の空間システム 特別研究委員会

特別研究報告

委員長

副委員長 (推進小委員会主査)

鳴海邦碩

宇杉和夫

活動目的＊建築雑誌2006. 2月号公示

地球環境と地域文化環境の継承・持続のための新たな時代の空間システムを構築する必要がある。

近代の空間システムを批評的に検討し、地域文化環境に根ざした地域固有の空間システムを再構築できるフレームを検討する必要がある。

西欧に根拠をもつ普遍性と合理性を主張する空間システムは16世紀以来、非西欧地域に侵入・普及し、地域に伝承してきた空間システムを転換してきた。

日本は自ら政策的にそれ取り入れ、実施・先導してきた。この経過についての検討が、今日、日本の空間計画における近代化を理解・評価する一視点として重要視される。

そして、この近代化の方針を新たな環境持続、文化継承の側面から基本的に再検討し、新たな地域と都市を再生するシステムを構築する時点に現在がある。

近代の空間システムについては1960年代以降、様々な課題があることが建築デザインや都市計画も含まれる幅広い範囲で多様に指摘されてきている。

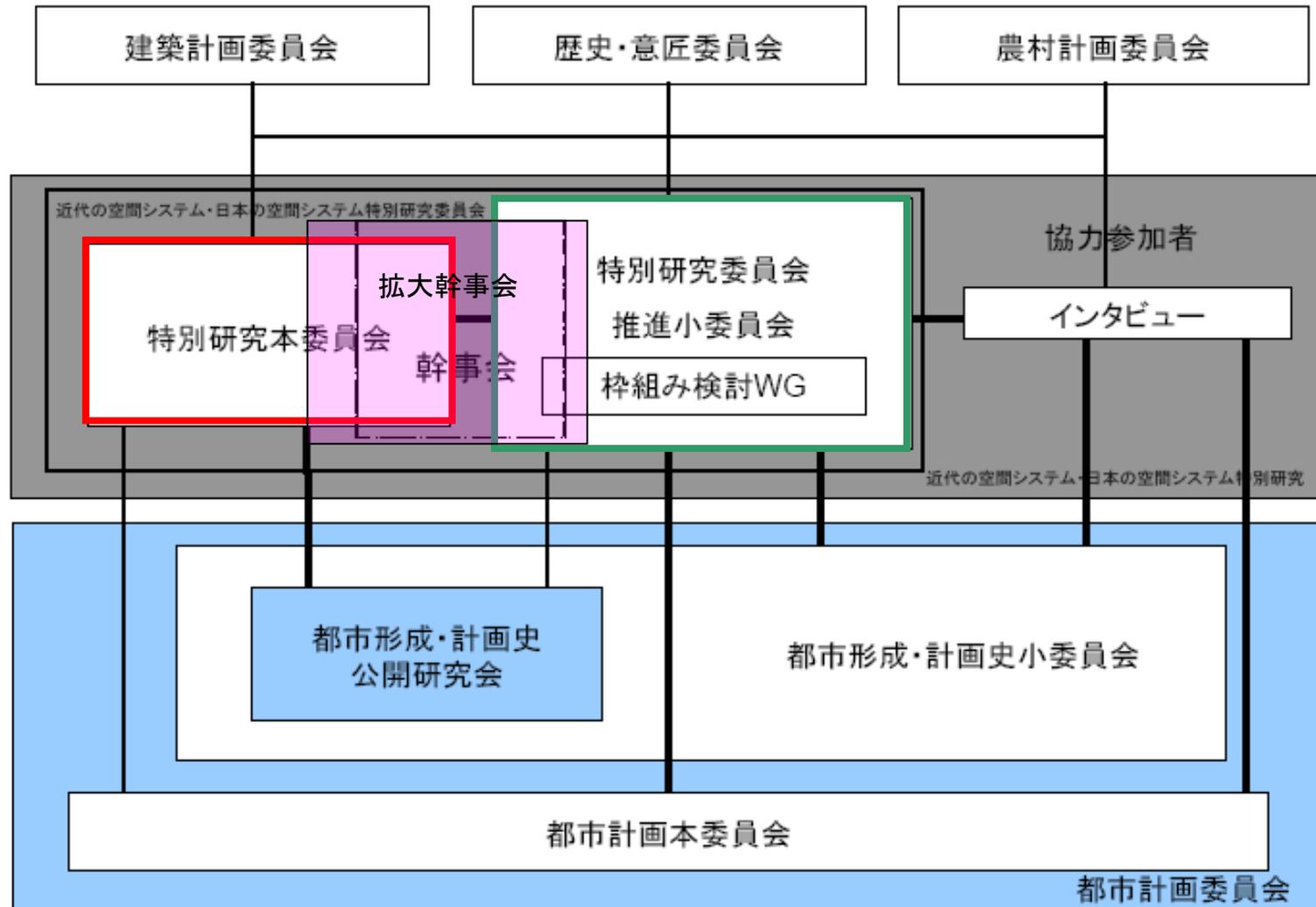
21世紀に入った現在では、新たな社会と環境の持続的発展・保全の時代の認識は社会全体の合意をえられる。近代の空間システムと日本に継承持続してきた空間システムの関係について共有できるガイドライン(地域に持続継承されてきたシステムを尊重する)を形成し、新たな地域づくりの空間計画の指標をつくることは時代の求めている。

これまでも、同様の問題意識から検討がなされてきているが、個別的で、不明快さと混乱も生じている。「知見や情報を編集する視座」や「環境批評的視座」など、新しい検討手法の開発も必要とされている。新たな世代との情報共有、概念共有を図るという目的も問題意識としてある。

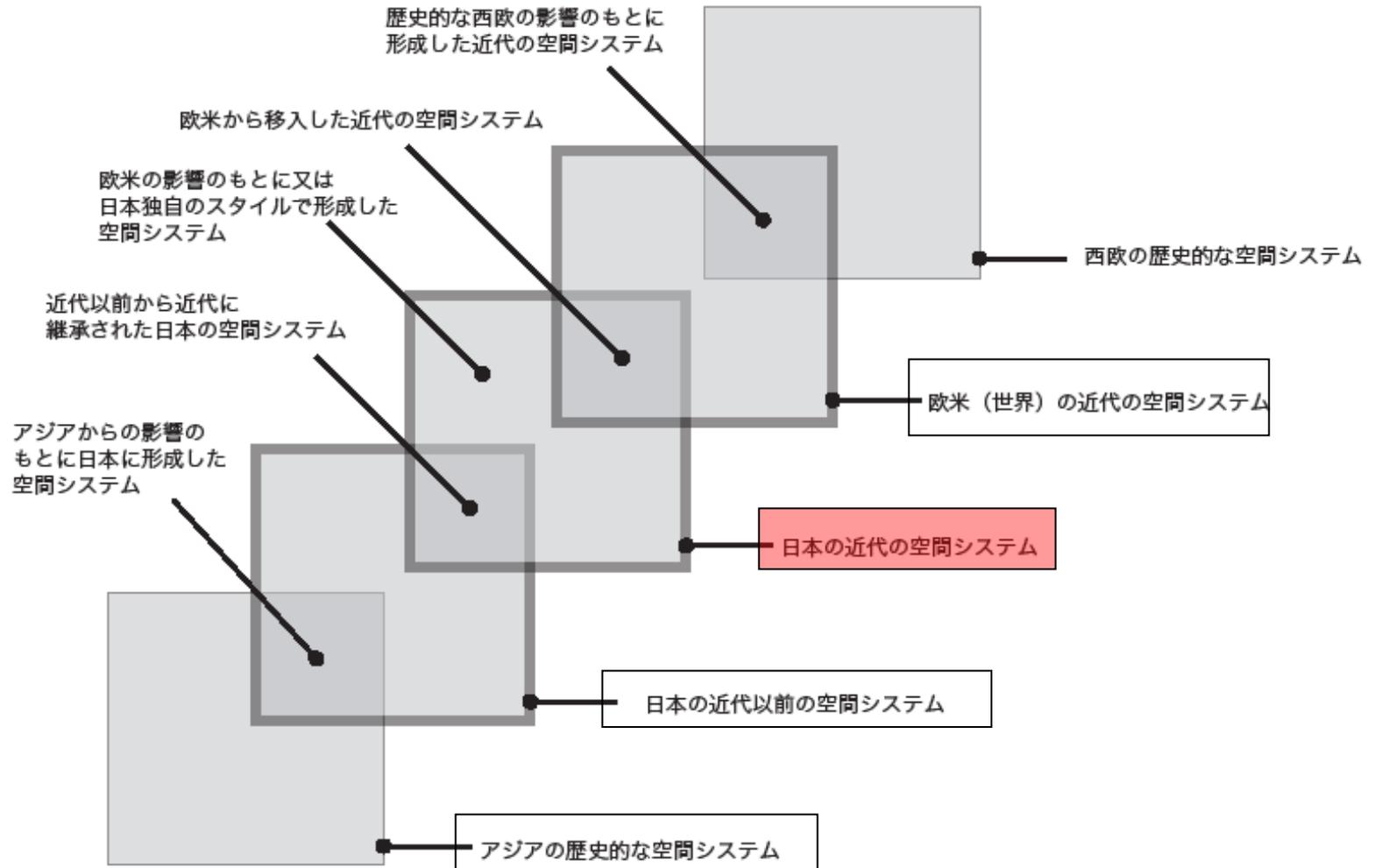
検討の枠組み(観点の軸)

- ① 古代から近代まで日本の地域文化に継承持続してきた空間システム・景観システムに立脚した視座
- ② 近代に世界的に広がった空間システム・景観システムに着目する視座
- ③ 近代日本の中で上記2項目①②がどのような関係であったかに着目する視座
- ④ 現在の状況を踏まえて新たな時代に対応する、地域に継承されてきた空間システム・景観システムを尊重した計画指標に着目する視座

研究組織・領域の枠組



空間システムの構成・関係を考える枠組み



* 選考委員会からの付記留意事項

- (1) 対象の絞込み、成果のまとめ方に留意されたい。
- (2) 1960年以降の様々な課題は十分に解明していただきたい。

準備過程 都市形成・計画史公開研究会実績

第8回〈2003年1月29日〉

東京と郊外の原因風景-原因風景と都市形成／都市計画の原因風景

- ・東京の地霊と近代建築 (鈴木博之)
- ・江戸東京の原因風景 (陣内秀信)
- ・地域の原因風景とニュータウン (川手昭二)
- ・東京郊外の現風景 (加藤仁美)

第10回(2003年12月13日)

都市再建プランの国際比較-日英比較を主として-

- ・都市再建プラン(都市復興計画)の系譜と背景 (石田頼房)
- ・イギリスの都市計画と再建プラン (長谷川淳一)
- ・大震災からの再建プラン (小林郁雄)

第11回(2004年3月12日)

日本の郊外 その原型と変容

- ・日本人にとっての郊外風景 (樋口忠彦)
- ・東京の都市拡大と郊外 (宇杉和夫)
- ・関西の郊外と住宅地形成 (木多道宏)

第13回(2005年3月15日)

郊外居住地の系譜と再編-都市化の中の工場と住宅

- ・モデルヴィレッジ-ファクトリータウンの系譜 (片木 篤)
- ・イギリスの労働者街・労働者住宅がもたらしたもの (藤谷陽悦)
- ・近代日本の社宅(街)形成と産業都市の成立 1)釜石、室蘭、苫小牧社宅(街)形成と産業都市(角 哲)
2)新居浜の社宅(街)形成と産業都市 (砂本文彦)

準備過程 都市形成・計画史公開研究会実績

第14回(2005年8月31日)

大阪の都市空間の原型と郊外

- ・大阪の古代・中世・近世の風景 (塚田 孝)
- ・近世都市大阪の近代都市への転換 (佐賀 朝)
- ・近代都市大阪の原型 (川島智生)
- ・大阪の郊外と田園都市計画 (安田 孝)

第15回(2005年12月3日)

長崎:日本の空間景観システムと世界のシステム

- ・長崎の建築・都市の形成 (林 一馬)
- ・オランダの近代世界システム (布野修司)
- ・景観都市長崎と西欧のシステム (宇杉和夫)
- ・長崎市の近代都市形成史 (岡林隆敏)

第16回(2006年3月20日)

日本のニュータウン計画の形成と再生

- ・日本最初のニュータウン計画 (片寄俊秀)
- ・近隣住区理論と住宅団地計画 (中田雅資)
- ・欧米と日本のニュータウン計画 (佐藤健正)
- ・地形・風景とニュータウン計画 (宇杉和夫)
- ・ニュータウンと地域空間形成 (御船 哲)
- ・ニュータウンの居住再生の課題 (木多道宏)

2006年度特別研究委員会共催公開研究会

(都市計画委員会都市形成・計画史小委員会主催)

主な対象地を東京圏・大阪圏・開港工業地方都市と定めた。

第17回(2006年9月6日)

公開研究会 江戸空間・東京空間・江戸東京空間システム

江戸空間・東京空間の形成を都市計画史・形成史の立場から振り返る。
江戸東京空間システムという包含的なシステムを如何に構築できるかについて論じた。

- ・江戸空間システムの枠組みと価値 (玉井哲雄)
- ・江戸空間から東京空間への遷都過程 (佐々木克)
- ・荷風のみた東京・パリの空間評価 (東 秀紀)
- ・江戸東京の居住空間の形成・変化 (加藤仁美)
- ・東京都市計画の遺産と都市の品格 (越澤 明)

2006年度特別研究委員会共催公開研究会

(都市計画委員会都市形成・計画史小委員会主催)

主な対象地を東京圏・大阪圏・開港工業地方都市と定めた。
大会協議会資料原稿依頼者全員に参考テキストとして配布した。

第18回(2006年12月20日)

公開研究会 居住地のアイデアの形成／居住地の計画・形成の原形

地域に継承されてきた居住空間システムとその背後のアイデアと近代化の居住空間の計画についての理念が背景の中で形成し、関係したかを批評的に検討した。

それがどのように今日と将来の問題・成果につながっているかを検討した。

- ・農村計画/日本の集落居住と農村の空間特性 (糸長浩司)
- ・農村計画/アジアの居住地の空間構成 (畑 聰一)
- ・建築計画/住宅地計画からみた原風景論 (服部岑生)
- ・歴史意匠/居住地空間の計画的規格基準標準化 (富井正憲)
- ・都市計画/関西郊外住宅地のアイデアと空間像の変遷 (角野幸博)

2006年度特別研究委員会共催公開研究会

(都市計画委員会都市形成・計画史小委員会主催)

主な対象地を東京圏・大阪圏・開港工業地方都市と定めた。

第19回(2007年3月24日)

公開研究会 開港都市の原風景と近代の空間システム

開港都市空間の形成について、近代都市計画史・形成史の文脈から見る。

地域に継承されてきた空間景観システムと近代の空間システムとが如何に関連性をもっているかを把握する。

- ・兵庫・神戸の歴史空間と原風景 (高久智広)
- ・神戸の原風景と洋風建築 (川島智生)
- ・開港都市の原風景と景観形成 (宇杉和夫)

2007年度特別研究委員会主催シンポジウム等

(都市計画委員会都市形成・計画史小委員会共催)

20世紀の「欧米の空間システムと日本の空間システム」の関連、相違を明らかにし、それを共有し、次世代に引き継ぐことを目標にしてまとめている。

「フォーラム：大阪の空間システムを考える」

(2007年7月17日)

近代の空間システム・日本の空間システムを読み解くケーススタディを大阪、近代以前の都市空間をもとに、近代以降に拡大や改造といった変化を繰り返してきた大阪の空間システムの特質について論じた。

- ・都市大阪の形成 (角野幸博)
- ・大阪都市圏の住宅地 (寺内 信)
- ・大阪の住宅と市街地化履歴 (岡絵理子)
- ・拡大する大坂と都市計画 (赤崎弘平)
- ・戦前大阪の都心改造 (嘉名光市)

2007年度特別研究委員会主催シンポジウム等

(都市計画委員会都市形成・計画史小委員会共催)

20世紀の「欧米の空間システムと日本の空間システム」の関連、相違を明らかにし、それを共有し、次世代に引き継ぐことを目標にしてまとめている。

「近代の空間システムと日本の空間システムの評価」

(大会特別研究協議会、2007年8月30日)

歴史意匠、農村計画、建築計画、都市計画の諸分野において、近代の空間システムと近代以前の空間システムとの関係がどのように扱われてきたか、持続性を基調とする今後にあって、どのような関係の枠組が必要かを総合的に論じた。

- ・日本の都市における近代性と変容 (陣内秀信)
- ・集落の空間 その構造をどう読むか (重村 力)
- ・「近代空間システム」としての都市骨格の変容と市街地形成 (佐藤 滋)
- ・都市空間の構想力 (西村幸夫)
- ・建築類型と街区組織-プロトタイプの意味 (布野修司)

2007年度特別研究委員会主催シンポジウム等

(都市計画委員会都市形成・計画史小委員会共催)

20世紀の「欧米の空間システムと日本の空間システム」の関連、相違を明らかにし、それを共有し、次世代に引き継ぐことを目標にしてまとめている。

「建築学は20世紀をどう継承するか」(2007年12月10日)

本特別研究では「地域継承空間システムを尊重した空間形成計画手法の構築」を尊重する立場から1960年代以降の経過を解明することも課せられている。

これまでの空間形成、空間計画における理解と批評が検討し、多角的に本旨を検討する。

- ・ディスクリート シティと集落 (原 広司)
- ・20世紀と1960年代を振り返り、21世紀の課題に応える (荻原 敬)
- ・1970・80年代の環境計画システム (進士五十八)
- ・地霊と都市 近代以後 (鈴木博之)

2007年度特別研究委員会主催シンポジウム等

(都市計画委員会都市形成・計画史小委員会共催)

20世紀の「欧米の空間システムと日本の空間システム」の関連、相違を明らかにし、それを共有し、次世代に引き継ぐことを目標にしてまとめている。

「欧米の計画と日本の近代空間システム」

(2008年3月22日予定)

明治以降、日本は、欧米から近代の空間システム、社会システムを積極的に取り入れた。

アジア諸国もまた、日本と同じような過程を取りつつある。

留学等を通じて都市計画について研究を深めた者に、それぞれの経験から得られた所感を披露し、国際地域比較の観点も含め、日本の都市計画の取るべき方向性について議論する。

- ・ヨーロッパと日本の公共空間計画 (坂井 文)
- ・EUの都市・地域計画システム (片山健介)
- ・アメリカの計画システムと日本 (金澤成保)
- ・アジアと日本の空間システム (高村雅彦)

WG運営方針と経過

以下の構成によってWS(ワークショップ)を実施してきた。

幹事・担当が小WSを開催し、「視点・項目」と「執筆担当」等の案をリスト化する。

WGの内容は重複するものとする。

内容は研究的深さよりは経過の認識・評価に基づき、今後の方針を示すものとする。

- | | |
|---------------------|-------------------------|
| A) 開港・工業化 | (幹事: 中野茂夫・砂本文彦・川島智生) |
| B) 農村集落の変化と都市化 | (幹事: 三橋伸夫・山崎寿一・糸長浩司) |
| C) 公共の場・公共圏 | (幹事: 中島直人・橋爪紳也) |
| D) 市街地形成 | (幹事: 青木仁・和田幸信・岡本哲志・後藤治) |
| E) 居住タイプ・住宅地の敷地周辺構成 | (幹事: 藤谷陽悦・角野幸博) |
| F) ニュータウン・新都市開発 | (幹事: 木多道弘・森永良丙) |
| G) 防災・安全・鎮護・戦災 | (幹事: 村尾修・三橋博巳) |
| H) 居住空間デザイン | (幹事: 江川直樹・入之内瑛) |
| I) 1960年代以降の経過 | (幹事: 土田寛、中島直人) |

成果報告書のとりまとめ

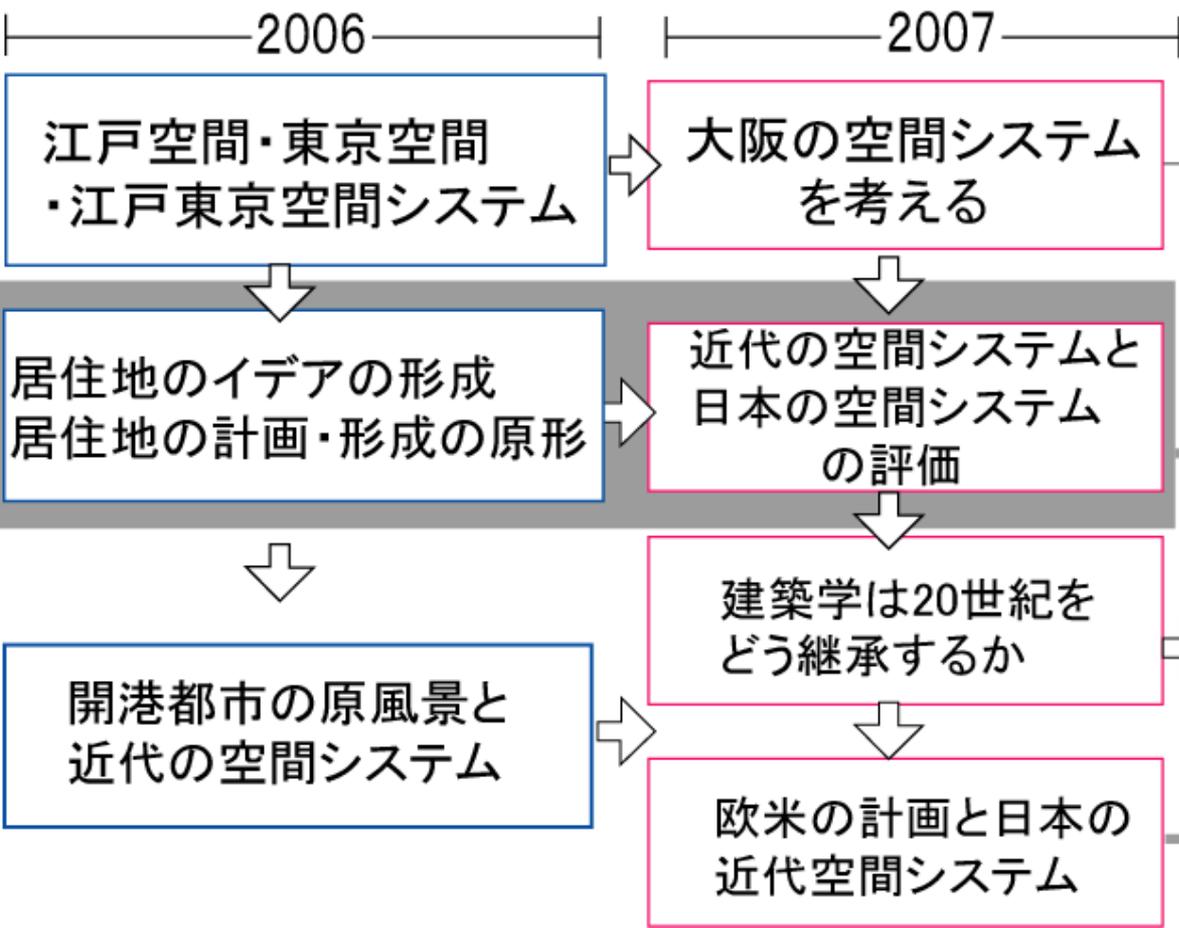
1. 内容を3部構成とする。
前章／全体文脈／テーマ基本文脈／テーマ別文脈／後章・まとめ
2. 本特別研究の成果は次のものとする。
 - ・公開研究会資料集(2006年度 3冊)
 - ・特別研究シンポジウム資料集(2007年度 3冊)
 - ・特別研究大会研究協議会資料集(2007年度 1冊)
 - ・特別研究報告書(2007年度:実質2008年6月)
3. 公開研究会・シンポジウム資料集と特別研究報告書の関係
大会協議会、公開研究資料集、及びシンポジウムの成果・指標をもとに全体文脈・テーマ基本文脈・テーマ別文脈の指針を検討する。
4. スケジュール
特別研究報告書原稿の締め切りを2008年4月10日とする。
報告書刊行・報告会2008年6-7月(予定)

近代の空間システム日本の空間システム特別研究の流れ

都市形成・計画史小委員会
公開研究会

◀ 近代の空間システム日本の空間システム特別研究委員会 ▶

- 東京と郊外の原風景
—原風景と都市形成／都市計画の原風景—
- 大阪の都市空間の原型と郊外
-
- 日本の郊外 その原型と変容
- 郊外居住地の系譜と再編
—都市化の中の工場と住宅—
- 日本のニュータウン計画の形成と再生
-
- 長崎：
日本の空間景観システムと世界のシステム
- 都市再建プランの国際比較
—日英比較を主として—



- 都市形成・計画(史)
の
ガイドライン
- ↑
- 報告書
- 全体
文脈
- テーマ
基本文脈
- テーマ別
文脈